

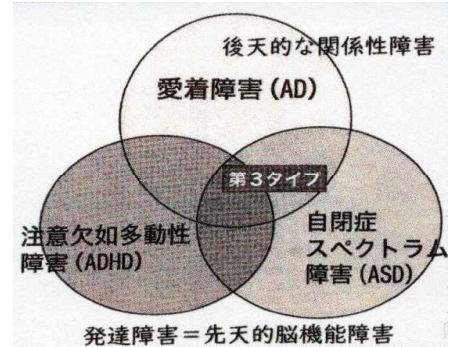
# 地域支援だより

県立南薩養護学校  
校外支援係  
No. 6  
令和3年9月21日  
(文責 中蘭)

## 愛着障害とADHDの違い

巡回相談や就学相談会で出会う子どもたちの中には、落ち着きがなく、一見ADHD（注意欠如多動性障害）と共通する特性と思われることもあります。その要因となる背景や環境で、基本的な対応が全く違う事例があります。このことに関して愛着障害とADHDの違いについて考えてみましょう。

- ・ 愛着とは…特定の人との間に結ぶ情緒的な絆
  - ・ 愛着障害 (Attachment Disorder)
    - ①「安全基地機能」…恐怖や不安から守ってくれる。
    - ②「安心基地機能」…そこに行くとなんか落ち着く、ほっとする。
    - ③「探索基地機能」…そこを離れても大丈夫で、離れていったことを報告して認めてもらう。
- 上記の3つの絆が育っていない問題が愛着障害の要因の問題。



(図1 AD, ADHD, ASD の分類)

○ ADHDとAD（愛着障害）の見分けかたを観点別に表にしてみました。

	ADHD	愛着障害 (AD)
① 多動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いつも多動</li> <li>・ 行動の問題</li> <li>・ 「気付く」という認知機能や気持ちや感情の機能とは無関係。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ムラのある多動</li> <li>・ 感情の問題</li> <li>・ ネガティブ感情が多いとき、ポジティブ感情で興奮状態のとき多動。</li> <li>・ ほどよいポジティブ感があるときは落ち着いている。</li> </ul>
② 対人場面	<p>Q 集団か、二人きりか等、対人場面の違いによって特徴の現れ方が違うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 変わらない</li> <li>・ 他者との関係性の障害ではない。</li> <li>・ 場面の違い、対人関係の違い、集団か1対1か等によって違いは見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 変わる</li> <li>・ 特定の人との絆の問題。</li> <li>・ 集団場面で表れやすい。</li> <li>・ 逆に1対1の状況では表れにくい。</li> </ul>
③ 片付け・ルール	<p>Q ADHD, AD 共に片付けができない、ルールが守れないように見えるが、何が違うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行機能、遂行機能の問題があるため、「片付ける」という一連のいくつかの行動を最後まで行うのが困難。</li> <li>・ スモールステップでの行動支援が有効。</li> <li>・ 「ルールを守らねば」という遵守意識はあるが、衝動を抑えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「片付けた方が気持ちがいい」という感情、「片付けよう」という意欲が育っていない。</li> <li>・ 今日ではできても翌日はできないことが多く、指導の積み上げが期待できない。</li> <li>・ 「ルールを守ろう」という意識そのものが育っていない。</li> </ul>
④ 無視への反応	<p>Q 不適切な行動場面で、その行動に対して反応せず「計画的な無視」を試みたときの違い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有効な支援となる。</li> <li>・ オーバーな対応をとらないことで、次第にその行動は減少していく。</li> <li>・ 発生した行動を強化することにはならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 逆なで、不適切行動が増加。</li> <li>・ 自分の感情を分かってくれないという思いを誘発、感情を逆なで。</li> <li>・ 本来は「こっちを向いてほしい。」というアピール感情であるため、もっと注目してほしいと不適切行動が増えることもある。</li> </ul>

参考文献「やさしくわかる！愛着障害」（ほんの森出版 米澤好史 2018）

\* 次号では、愛着障害（AD）の支援の基本について考えてみます。